

健康生活支援実習（こどもと家族）

[実習] 第3学年 後期 必修 2単位

《担当者名》 木浪 智佳子 kinami@hoku-iryo-u.ac.jp 川崎 ゆかり 谷本 真唯

【概要】

成長・発達過程にあるこどもと関わる体験を通して、様々な健康レベルのこどもとその家族に対する看護援助を学ぶ。

【学修目標】

あらゆる健康レベルにあるこどもとその家族の特徴を理解し、状況に応じた看護を実践するための基礎的能力を身につけ、こどもと家族を支援する多職種連携のあり方とチームにおける看護の役割を理解する。そのために以下を目標として学ぶ。

1. こどもや家族の特性を考慮した言語的・非言語的コミュニケーションをとることができる。
2. こどもの成長・発達段階、疾患や障がい程度、治療・検査が、こどもや家族の日常生活に及ぼす影響を系統的にとらえる。
3. こどもの個別性及び倫理面に配慮し、こどもの力を引き出す看護を考え、実践し、評価を行う。
4. こどもと家族を支援する様々な人々との連携を通して、看護職の役割について考える。
5. 専門職業人としての自覚を持ち、実習学生としての責任と役割を果たす。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1週目	・疾患や障がいがあるこどもと家族の生活に及ぼす影響の理解 ・こどもと家族の状況に応じた看護の検討と実践 ・こどもと家族に関わる多職種連携を通じた看護職の役割の理解	・こどもと家族の特性を考慮したコミュニケーションをとる。 ・こどもと家族に関わる情報収集とアセスメントを行い、必要な看護を提案する。 ・指導を受けながらこどもと家族への看護援助を実施する。 ・こどもと家族に関わる多職種との連携を通して、看護職の役割を理解する。 ・1週間の実習を振り返り、実習目標の達成度を評価する。	木浪・川崎・谷本
2週目	・疾患や障がいがあるこどもと家族の生活に及ぼす影響の理解 ・こどもと家族の状況に応じた看護の検討と実践 ・こどもと家族に関わる多職種連携を通じた看護職の役割の理解 ・2週間を通じた実習内容の振り返りとまとめ	・こどもと家族の特性を考慮したコミュニケーションをとる。 ・こどもと家族に関わる情報収集とアセスメントを行い、必要な看護を提案する。 ・指導を受けながらこどもと家族への看護援助を実施する。 ・こどもと家族に関わる多職種との連携を通して、看護職の役割を理解する。 ・2週間の実習を振り返り、実習目標の達成度を評価する。	木浪・川崎・谷本

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

1. 事前学習、実習目標達成度、記録物の内容・提出状況、実習参加態度を総合して評価する。
2. 学生は、1週目の終わり・実習最終日に実習評価表を用いて実習目標の達成度を自己評価する。

【教科書】

小児看護学、小児病態と看護、小児看護学演習で用いた教科書

【参考書】

実習前課題である事前学習ノートに参考書一覧を掲載

【備考】

実習に関する連絡と実習記録様式のダウンロードのためにGoogle Classroomを使用する。

【学修の準備】

1. 小児看護学および小児病態と看護（2年次）、小児看護学演習（3年次）の学修内容から、こどもの発達、こどもに多い疾患と治療、こどもと家族への看護、こどもに対する倫理的配慮について、復習する。（予習1時間）
2. 実習前に配布する事前学習ノート、病院・施設別課題を作成し、臨地実習で活用できるように準備する。（予習1時間）
3. 毎日のこどもと家族と関わった経験を振り返り、実習記録に学びを整理する。（復習1時間）

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2：看護専門職に必要な知識・技術を修得し、健康や生活に関する問題に対して、適切かつ柔軟に判断し解決できる学術的・実践的能力を身につけている。

DP1：人間の生命および個人の尊重を基本とする高い倫理観と豊かな人間性を身につけている。

DP3：社会環境の変化や保健・医療・福祉の新たなニーズに対応できるよう自己研鑽し、自らの専門領域において自律的・創造的に実践する能力を身につけている。

DP4：保健・医療・福祉をはじめ、人間に関する様々な領域の人々と連携・協働できる能力を身につけている。

【実習方法】

実習期間：3年後期の指定された2週間。

1. 2024年9月17日～9月27日
2. 2024年10月21日～11月1日
3. 2024年11月5日～11月15日
4. 2025年1月6日～1月17日
5. 2025年1月20日～1月31日
6. 2025年2月3日～2月14日
7. 2025年2月17日～2月28日

実習施設：北海道大学病院、札幌厚生病院、JCHO北海道病院、手稲溪仁会病院、札幌徳洲会病院、済生会小樽病院みどりの里、医療福祉センター札幌あゆみの園、大倉山学院、北海道立子ども総合医療・療育センター、児童デイサービスセンターamaririsu・kaede、児童発達支援センター たくあいアクティビティ「むら（夢）」・「ひびき（響）」、訪問看護ステーションあみえる、北海道医療大学病院

【実務経験】

木浪 智佳子（看護師）、川崎 ゆかり（看護師）、谷本 真唯（看護師）

【実務経験を活かした教育内容】

小児看護学及び母子保健の実務経験を通じて得た知識・技術・態度を活用し、実践的な教育を行う。